日本陸連科学委員会研究報告　第10巻（2011）

陸上競技の医科学サポート研究　REPORT2010

序　　文

2010 年度における科学委員会の活動をまとめると，以下のようになる.

１．種目別サポート活動など

競技会を対象としたバイオメカニクス研究活動を IAAF グランプリ、日本選手権などにおいて行い、強化コーチや選手にデータをフィードバックした。また、国立スポーツ科学センターや味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて体力や技術の測定を行った。

２．ジュニア選手に関する活動

ジュニア選手を対象とした活動としては、沖縄インターハイにおいて昨年と同様に VTR 撮影、タイム分析、障害、栄養及び食事アンケート調査などを行った。またジュニア研修合宿において選手を対象とした計測などを行った。

３．広州アジア大会に関する活動

広州アジア大会には、委員会委員を派遣し、国立スポーツ科学センター研究員とともに、日本選手の VTR 撮影を行い、データをフィードバックした。

４．2011 大邱世界陸上選手権大会開催地における暑熱環境調査

大邱における実際のレース時刻を想定し，日照の影響を中心に暑熱環境の調査を実施した（詳細は、本報告書を参照)。

５．標準動作の作成

これまでの活動から得られた一流選手の動作データから一流選手の標準動作モデルの作成を試みた（その一部を本報告書に掲載した)。

強化委員会強化コーチと科学委員会代表の会合を積極的に開催して話し合い、より強固な協力体制が確立されつつある。これは、本委員会の成果がコーチングの現場で有用であると認められたことを示すが、尾縣専務理事、澤木前専務理事、髙野強化委員長をはじめとする関係者の「競技力向上には科学を活用することが不可欠である」という確固たる意志と方針がなくては不可能なことであった。

最後になったが、科学委員会の活動に多大なご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げる次第です。

科学委員会委員長
阿江通良

平成 22 年度　科学委員会メンバー

阿江　通良　筑波大学体育科学系
松尾　彰文　国立スポーツ科学センター
杉田　正明　三重大学教育学部保健体育科
持田　　尚　公益財団法人横浜市体育協会
榎本　靖士　筑波大学体育科学系
飯干　　明　鹿児島大学教育学部
石井好二郎　同志社大学
伊藤　　章　大阪体育大学
井本　岳秋　㈱スポーツ・ウェルネス総合企画研究所
杉浦　克己　立教大学
田内　健二　早稲田大学スポーツ科学部
高松　潤二　流通経済大学
髙本　恵美　大阪体育大学体育学部
鳥居　　俊　早稲田大学スポーツ科学学術院
広川龍太郎　北海道東海大学国際文化学部
法元　康二　茨城県立医療大学
山崎　史恵　新潟医療福祉大学健康科学部
柳谷登志雄　順天堂大学スポーツ健康科学部
瀧澤　一騎　北海道大学高等教育推進機構
森丘　保典　日本体育協会スポーツ科学研究室
小山　宏之　筑波大学Ｒ＆Ｄコア
八田　秀雄　東京大学大学院
禰屋　光男　東京大学大学院

※所属は平成 23 年 3 月現在

日本陸連科学委員会研究報告　第 10 巻（2011）

陸上競技の医科学サポート研究　REPORT2010　目次

100m レースにおける４ステップごとにみたスピード，ピッチおよびストライドの変化　・・21
松尾彰文，広川龍太郎，柳谷登志雄，持田　尚，杉田正明，松林武生，貴嶋孝太，
川崎知美，苅部俊二，土江寛裕，清田浩伸，麻場一徳，中村宏之

2010 年日本一流男子 800m 選手のレースパターン分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
―日本高校新記録のレース分析―
門野洋介，榎本靖士

国内一流男子走幅跳選手における助走パターンの事例的分析・・・・・・・・・・・・・・・・33
苅山　靖，小山宏之

競技会における一流男女走幅跳および三段跳選手の助走スピード分析・・・・・・・・・・・37
小山宏之，村木有也，柴山一仁，清水　悠，築野　愛，苅山　靖，阿江通良

ディーン元気選手におけるやり投動作の縦断的変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
－ 2009 年と 2010 年との比較から－
田内健二，遠藤俊典，藤田善也，矢野恵太，藤井宏明，大宅和幸

2010 年北海道マラソンにおけるレース中の給水（スペシャルドリンク）調査　・・・・・・55
瀧澤一騎，石井好二郎

2011 大邱世界陸上選手権大会開催地における暑熱環境調査　・・・・・・・・・・・・・・・61
石井好二郎

陸上競技における動きの標準値（標準動作）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
阿江通良，清水　悠，矢田恵太